

長崎県美術館 春のぽかぽか美術館

開催期間:平成29年4月22日(土)~平成29年5月7日(日)



【本事業の内容・目的】

- 海の中の美しい環境を、絵で再現した壁面作品などを造作の一環として体感的に鑑賞し、海の生き物たちが楽しそうに過ごしている姿をみることで、美しい海的环境にあこがれる気持ちを育てる。
- 来館者が海に関連した作品づくりやプロの作家による造作物との触れ合いを通して、海の生き物や船といったものへの愛着を育み、海洋に対する興味関心を育てる。
- 「魚のブローチづくり」「海の生き物づくり」を通して、魚や海の生き物の形態を意識した作品づくりをすることにより、魚であればえら、ひれ、うろこといったその生物的特徴を意識しつつ、海の生き物への愛着を育て、海を知る活動の一環とする。
- 南蛮船をモチーフとしたハンコによる船をつくる過程で、船と長崎の歴史に対する興味関心を育てる。
- 未就学児の間に、海に対する楽しい思い出が残るような体験の機会を多く提供することにより、海への親しみを高めていただき、今後海に関わる次世代の育成を目指す。

活動の様子

1.実施活動名①GWプレイベント「ジンさんとお魚を描こう」

【開催日時】平成29年4月22日(土)、23日(日)各日11:00~15:30

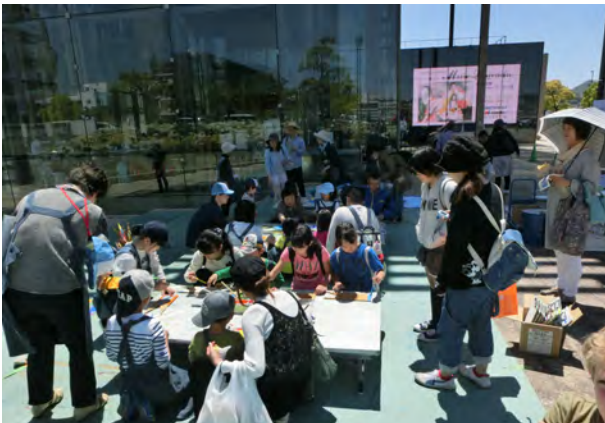
【開催場所】長崎県美術館 運河劇場

【参加者数】553名

【主な対象】小学生までの親子連れ

【活動内容】

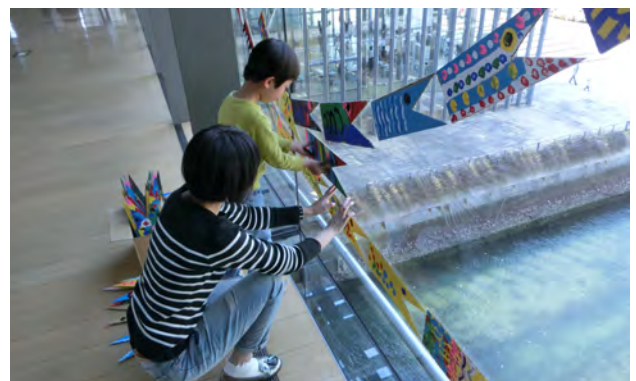
- GW事業の開催前に広報宣伝活動を兼ねプレイベントとして実施。
- 韓国の美術家の指導の基、参加者が絵の具を使って色とりどりの魚を描いたあと、美術館のガラス面に大きな魚の形を模して貼った。制作過程で、魚という生き物が、韓国では「裕福さの 象徴」「家を守ってくれるもの」、そして日本では「こいのぼり」や「めでたい」に象徴されるように、子どもの健康と成長祈願であることや縁起の良いものであることを話すことで、魚に対する良い印象を持って制作いただくようにした。



開催場所全景の様子



作品展示の様子（美術館外観から）



参加者の作品すべてを、魚の群れのごとくガラス面に張り付けていくことにより、海の中の風景が連想される展示となった。具体的には、それらの魚の群れが全体として見た時に、二頭のクジラの親子の形に見えるようにした。それらを鑑賞することで、海の中の美しい海の環境にあこがれる気持ちを育て、美しい海の環境の大切さを感じ取り、参加者の海洋環境の保護に対する意識を高めることを狙った。展示場所が長崎県美術館2階橋の回廊のガラス面であったため、それらの作品は館内外から誰でも鑑賞することが出来、参加者だけでなく通りがかりの方々も関心を持って鑑賞していただけた。参加者からの感想としては、「子どもと魚を感じれてよかった」「自分のオリジナルの魚ができたこと」といった、魚に対する愛着が芽生えたと思われる感想が多く聞かれた。未就学児の参加も予想通り多く、絵の具で魚を塗る行為に没頭している様子を見て、保護者も満足していた。